

2015 年度 日本人間工学会関西支部春季講演会のご案内

日本人間工学会関西支部では、以下の春季講演会を企画いたしました。会員、非会員にかかわらず、広く人間工学分野、ならびに医療・健康・福祉分野のご関係者、そしてこれから社会で活躍する学生の方々にも、お誘いあわせの上ご参加いただければ幸いです。

講演 1：「視機能からみた身体動作」

講演 2：「身体と場に埋め込まれた「知」を探る --知の双対構造--」

[日時] 2016 年 3 月 26 日 (土)

14：00～15：00 第一部 講演会

15：00～16：00 第二部 講演会

※役員の方は、12:00～13:00 の会議にご参加ください

※会員の方は、13:00～14:00 の関西支部総会にもご参加ください

[会場] 大阪府立大学 I-site なんば 大阪市浪速区敷津東 2 丁目 1 番 41 号 南海なんば第 1 ビル
2 階カンファレンスルーム C3 (南海電車線路沿いの南海本社ビル内)

※建物北側の大阪府立大学専用入口からお入りください。

<http://www.osakafu-u.ac.jp/isitenanba/map/index.html>

[第一部テーマ]

視機能からみた身体動作

[第一部講師]

吉井 泉 先生

大阪府立大学 高等教育推進機構・健康科学

[講演概要]

「見る」ことは、見づらくなって初めて意識する機能かもしれません。しかし人間の行動への視機能の関与は絶大で、身体動作を規定しているといっても過言ではありません。視機能に関しては、医学・生理学、神経科学、スポーツ科学また人間工学などの様々な分野で研究が行われています。「いつ、何を、どのように」見ているかを分析することから、いろいろなことが見えてきます。本講演では、身体動作、スポーツ技能、高齢者の歩行動作などと視機能との関連について、具体的にお話します。

[第二部テーマ]

身体と場に埋め込まれた「知」を探る --知の双対構造--

[第二部講師]

大須賀 公一先生

大阪大学大学院工学研究科機械工学専攻

[講演概要]

知的に振る舞う人工物はどうすれば造れるだろうか？ 生物にならって脳に相当する機能を巧く作り込めばできるかもしれない。しかし、生物を観ると必ずしも「知」の全てが脳に存在するとは思えない。私達は、「知」の秘密の本質は「脳」のみならず、「身体と場の相互作用」にあるのではないかと考えている。私達は脳の知を「陽的知」、相互作用に生まれる知を「陰的知」と呼んでおり、「知とは陽的知と陰的知の双対構造である」との仮説を提唱している。本講演ではその考え方を例示するいくつかの具体例を紹介したい。

[参加費]

日本人間工学会会員 (関西支部会員含む)・学生 無料

非会員 ¥500 (当日受付にてお支払い下さい)